地域新聞 みあき 第15号

地域新聞みあき製作委員会
令和4年2月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com
公式HP https://www.miaki.org

みんなで試し掘り！

（文責）原田　浩明

令和3年10月17日、三秋地区住民及びイベントスタッフ関係者を対象にしたレンコン試し掘り会が、『レンコンファーム三秋』にて行われた。初めて参加される住民の方もいる中、途中で折らないよう参加者同士で協力し合いながら慎重に掘り進めていた。出来の良いレンコンが次々と掘り出されたので、本番の収穫体験会が大いに盛り上がること、でしょう。

大きなレンコンとれよ！

参加者みんなでハイポーズ！

看板リニューアル

（文責）原田　浩明

令和3年10月20日、『レンコンファーム三秋』の看板の付け替え作業を行った。これまで設置していた看板は、雨風等で破損してしまった為、新しく作り直す運びとなり、当新聞の活動に協力して頂いている愛媛大学共創学部の学生の皆さんにもデザインの段階から関わって頂きながら新看板を製作。今回の看板は、沿線を走るJRの乗客を意識し、裏面にレンコンのデザインを描いているのが特徴。これにより少しでも多くの方に三秋のレンコンをPR出来ればと願うスタッフ一同でした。

柱へ看板を取り付けている様子

ガンバって掘ったよ！

秋のレンコン祭り

（文責）原田　浩明

心地よい風が吹く秋晴れの下、令和3年11月3、21日の両日、『レンコンファーム三秋』にて、恒例のレンコン収穫体験会が行われた。今回で3回目ということもあり、事前予約開始から多くのお問い合わせを頂き、両日とも満員御礼となった。今回も新型コロナ感染予防対策を取りながらの開催となったが、各参加者が思い思いに収穫体験を堪能、立派なレンコンが掘り出される度に大きな歓声があちこちで上がっていた。また、今回は、愛媛大学の学生による催し物（手作りジュースの試飲、パラスポーツ体験、竹楽器演奏体験等）もあり、例年以上に盛り上がりを見せた。

思い思いに掘り進める皆さん

看板裏面はレンコンマーク

新看板完成しました！

3人とも見事なレンコンです

受付会場内にて

お詫びと訂正

本紙第14号1面の河村鹿蔵（槇江山）氏についての記事において、明治20～26年の間、何をしていたか不明であると記していたが、実際には、砥部の梅野製陶所で働いていたという記録が残っており、記事の内容に正確さを欠いておりました。謹んでお詫び申し上げます。

パラスポーツ(ゴールボール)の体験

竹楽器の演奏体験

読者プレゼントコーナー～消防水利に関するクイズ～

Q. 三秋地区内には、三種類の消防水利に関する標識が設置されています。それぞれの標識の中央に書かれている文字は次のうちどれでしょうか？

①消火栓　②消防水利　③防火扉　④防火水そう

ヒント　標識上部の英語を参考にしてください。
三秋地区内の市道を散策すると見つかります。

応募方法

①クイズの答え A－（　）B－（　）C－（　）
②住所　③氏名　④年齢　⑤電話番号　⑥本紙の感想などを明記の上、郵便ハガキ・Eメール・公式HPの応募フォーム（下記のQRコードからアクセス）のいずれかにてご応募ください。正解者の中から抽選で１名の方に図書カード５００円分をプレゼントいたします。

応募フォームこちら

宛先　〒799-3124　伊予市三秋甲２７１－２
地域新聞みあき事務局　宛
Eメール　info.miaki@gmail.com
応募締切　**2022年4月5日（火）必着**
当選発表　本紙第16号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送以外の目的では使用いたしません。

第14号のクイズの答えと解説

答え　**③西願寺境内のソテツ**

解説　昭和35年８月１日に指定されました。その他については次の通り。
①端の左衛門の墓
（昭和59年12月26日）
②水之明神社の狛犬
（指定されていません）

※伊予市HPより

当選者は松山市の住家さんです。
おめでとうございます。

みあき図書館

（文責・岡田　有利子）

『はずかしがりやのれんこんくん』
二宮由紀子（文）長野ヒデ子（絵）童心社

11月に行われたレンコン収穫体験会に、受付スタッフとして参加させてもらいました。「岡田さんも掘ってみんかね」最後にうれしい一言をもらい、お言葉に甘えてレンコン畑へと初めて足を踏み入れました。

姿を現したレンコンの形状を見て、この先にまだあるはずと、見当をつけて掘っていく。そこには見事なレンコンが隠れており、横に伸びる特性をなるほどなあと、実感したのでした。土の感触も気持ち良く、ベテランの読みにも敬服し、楽しい経験をさせて頂きました。

「僕のいいところって、あるのかなあ」この絵本のれんこんくんはいつも自信がありません。そこで、「どじょう」や「さかなとりあみ」、「さかな」や「とんぼ」、「かえる」たちがれんこんくんのいいところを探します。さて、それは？

大丈夫ですよ。れんこんくんのいいところは沢山あります。伊予市三秋のレンコン収穫体験会に参加した皆さんの顔がそう言っていましたから。そしてこの絵本を読んだら、収穫期だけではなく、葉っぱや花を見るために、またレンコン畑を訪れようと思うのです。

うちの家族を紹介します

（文責・サダさん）

No. 4

日山貞治さんちの愛犬「むぎ」ちゃん

性別：女の子
生年月日：2020年７月11日
犬種：ミニチュアダックスフンド
ＰＲ：ほとんど家の中で過ごしている箱入り娘です。チャームポイントは、お笑いタレント「はにわ」さんのように、頭部の髪の毛が逆立っています。普段は、ぶたのぬいぐるみで遊んでいます。夕方、日課にしているお父さんとの散歩を楽しみにしています。皆さん、外で会うことがあれは声を掛けてください。

みあき写真館

（撮影・ヒロ）

【タイトル】
夕暮れの三秋大池

おしらせ

皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの○○○　★うちの家族を紹介します　etc・・・。自薦他薦問いません。お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。
info.miaki@gmail.com

メールアドレス QR

地域新聞みあきの公式Instagram と LINE が開設されました。これからは、Twitter 以外のSNSからも情報を発信していきますので、登録宜しくお願いします。

公式 Instagram
miakinews

公式 LINE アカウント
@007ixphz

編　集　後　記

今年度も無事、レンコン収穫イベントを行う事が出来ました。これも偏に地域の皆様のご理解・ご協力があってのことと、心より感謝申し上げます。次年度こそは、新型コロナの感染が収まり、もっとたくさんの方々とふれ合えるイベントが行えることを切に願うばかりです。

イベントを終えて

（文責）愛媛大学社会共創学部 活動参加学生

※令和3年中に原稿頂きました。

竹楽器演奏体験の様子1

伊澤 綾夏

レンコン掘りイベントに参加して感じたことは、様々な年代の方々が、レンコン掘りを楽しんでいたということです。小学生の子供たちだけでなく、親御さんも一緒に体験されており、とても楽しかったという声を聴くことができて私も嬉しくなりました！また、私自身初めてレンコン掘りを行いましたが、回数を重ねるにつれてだんだんコツが分かり、最後には自分の力だけで掘ることができて達成感を感じました！

また、レンコン掘りの前後で行った愛大生のブースでは、多くの人が興味を持ってくださり、一緒に楽器を演奏したり、ゴールボールを行ったりできました。子供たちのたくさんの笑顔を見ることができてよかったです。

様々な貴重な機会を与えてくださった三秋地区のみなさん、ありがとうございました！！

竹楽器演奏体験の様子2

君岡 きらら

今年初めて参加させていただきました。レンコン掘り体験では参加者のサポートをさせていただき、私事ですが、久しぶりに「土」を触りました（笑）「土」をしっかり触ったのは中学1年生の田植え以来です。「この土が普段食べている野菜や果物を作っているんだ、土ってすごいな～」レンコン掘りイベントを通して、食育の授業を受けたような学びがありました。また、竹楽器のブースを設置させて頂き、ありがとうございました。10月1日にノコギリの使い方すらあやふやな状態で楽器制作をスタートしました。それからの1ヶ月間毎日竹と向き合いました。そして、イベント当日、何とか形にできた竹楽器に対して「え!?これ竹でできてるの!?」「音階ができてる！すごい！」等の反応を頂くことができ、10月の竹生活が報われました。竹楽器制作にあたり、協力してくださった方々への感謝の想いを忘れずに、これからも三秋を拠点として竹楽器の活動を続けていきます。

青木 建汰

イベント二日間お疲れ様でした！

去年に引き続き、2回目の参加です。今年は昨年よりもやってやるぞという気持ちが強く、その思いを本番にぶつけました。課題はいくつか挙がりましたが、それよりもイベントに参加してくださった方々の笑顔を身近に感じられたことが何よりも幸せでした。

また参加者だけでなく、運営スタッフの皆さんの笑顔も拝見出来てとても嬉しかったです。二日間のイベントを通じてもっと地域の声に応えたいと強く感じました。

来年はもっと面白い事に挑戦します。ありがとうございました。

パラスポーツ体験の様子

松浦 颯汰

私は今回、去年に引き続いて2回目のレンコン掘りイベントに参加させて頂きました。2回目の参加ということで、イベントの流れやレンコンの掘り方なども分かっており、レンコン掘りイベントの運営側としても、いち参加者としてもとても楽しむことができました。今年は、去年よりも子ども連れの参加者の方が多かった印象があり、親子でレンコンを掘り当てて喜んでいる参加者の方たちの姿を見て、とても幸せな気持ちになりました。また、今回は愛大生が考えたスポーツ、竹楽器、オリジナルスムージーなど様々なブースを置かせてもらいました。特に子供達がスポーツや竹楽器に興味津々で体験してくれてとてもよかったと思います。個人的には去年よりも今年の方がより良いイベントにできたと思います！貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

エコスポーツ体験の様子

上田 愛子

三秋地区の皆様、今回はレンコン掘りイベントに参加させていただき、ありがとうございました！連日寒い日が続いていましたが、2日間とも本当に天気が良く、沢山の方に楽しんでいただけたのではないかと思います。今回私は竹楽器ブースを設置させていただきました。ブースのお話をいただいたときから、イベントを一緒に盛り上げるためには、何を行えばよいのか、そもそも私たちが作った竹楽器が、地域の皆様そしてイベント参加者の方にウケるのか「美味しい！」と何杯もスムージーをおかわりしてくれるか不安でした。しかしイベント子どもたちの笑顔、必死にボールに飛びつく姿、竹楽器を演奏する楽しそうな様子、そして懸命に土を掘ってレンコンと向き合う姿、ここでしか見られない地域の良さが沢山詰まっているなと感じました。

三秋地区の魅力溢れるこのイベントが継続して開催されていくことを嬉しく思います。今後のイベントにも更に期待を込め、発展のためにこれからも活動していきます。

オリジナルスムージー

吉弘 あゆ

2年目のイベント参加でしたが、昨年よりもイベント全体の活気を感じました。子どもたちの人数も多く、素直に楽しんでいる様子が見られたことが嬉しく思いました。自然溢れる環境の中で土や生き物、食材に触れる機会が減少している中であり、このようなイベントは子どもたちにとって学びの場にもなる、とても良い経験だと感じました。

昨年は、レンコン掘りを手伝うだけになっていましたが、今年から愛大生ブースとして深く関わることができ、イベントの活性化にも尽力できたことを嬉しく思います。

本間 英路

今年初めて参加させていただきましたが、想像以上に体力を持っていかれたという印象でした。しかし、参加者の方と一緒にレンコンを掘り、大きなレンコンを収穫できた時にはすごく達成感が湧いてきて、自然と笑顔になることができました。また、参加者の方ともコミュニケーションを取りながら、レンコンを掘ることができ、終始和やかな雰囲気でイベントを楽しむことができました。来年以降は、より参加者の方に満足していただけるようなイベント、仕掛けを作っていきたいと意欲が湧きました。

明神山トンネル貫通

（文責）原田 浩明

式典出席者の皆さん

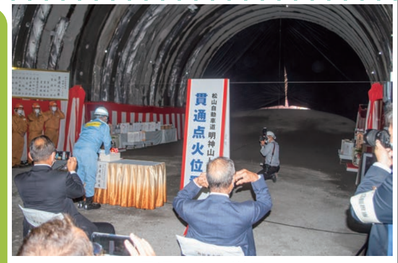
貫通式鏡開きの様子

令和3年11月1日、『松山自動車道明神山トンネル貫通式』が同トンネル坑内にて行われました。式典には、工事関係者をはじめ、地元自治体の関係者の方々が出席。式典前まで、閉ざされていたトンネルの先が、発破の演出に合わせて開いていく様は印象的でした。この後、式典は貫通点清めの儀や鏡開きなどを行い、同トンネルの貫通を祝うとともに、今後の工事の安全を祈りました。

明神山トンネルを歩こう

（文責）原田 浩明

坑内を散策する皆さん



貫通点火の様子

明神山トンネル貫通式と同日、地元住民を対象とした同トンネル内の見学会が行われました。三秋地区からも多くの方が参加。バスでトンネル奥（貫通点の少し手前）まで行き、そこから粒野側の出口までを歩いて見学しました。全長2545mのトンネルは圧巻で、普段見ることのないトンネル内部や出口周辺の工事の様子などを見ることができ、約1時間ほどでしたが、大変貴重な体験でした。

夫婦そろって防災士

（文責）原田 夏子

心肺蘇生の訓練

粒野側出口の様子を見学

坑内の展示物を見学

愛媛県は防災士の育成が盛んということもあり、三秋地区の代表として、今回私達夫婦が防災士の資格を取得することになりました。防災士の資格を取得するにあたって、10月23日に普通救命講習を受講しました。内容としては、前半はビデオによる座学で、どのような時に事故やけがが多いかやけがをしたときの止血法、のどに異物などが詰まった時の対処法などの応急手当を学びました。後半は救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法を実技を交えて学習しました。心肺蘇生法は実際に人形を使ってやりましたが、意外と力が入り、なかなかうまくできず、難しかったです。何度か挑戦するうちにできるようになってきました。

それから、1週間後の30、31日の2日間、松前総合文化センターで防災士養成講座を受講しました。防災士になるにあたって必要な知識を学びました。2日目の最後に試験があり、とても大変でした。事前のレポートや2日間勉強したことを頭に入れて臨み、後日、見事私達二人とも、無事合格することができました。これからは、何かあったときは防災士として率先して活躍していきたいです。

日常空間と神域との境界

（文責）日山 貞治

皆さんは、「鳥居の笠木の上に石を乗せたら、願いが叶う」と、聞いたことがありませんか。また、乗っている石を落としてしまうと「ばちが当たる」とも言われ、子供なりに真剣に石を乗せていませんでしたか。最近では、これらの行為は、めっきり少なくなりました。

これらの行為は、あくまで遊びであり、宗教的なものでないことは言うまでもありません。しかも、決してほめられたことではありません。

鳥居は神社において、門とも言えるもので、神域と人間の住む世界を分ける境界の役目をしています。地図記号にあるように、神社のシンボル的存在として神社には欠かせないものです。

鳥居は、二本の柱と上端に笠木を載せ、その下に貫と呼ばれる横木を渡す簡単な構造になっています。形式には大きく二つに分けることができ、伊勢神宮の鳥居のような上部の笠木が直線的な神明（しんめい）系と、伏見稲荷大社の鳥居のように反っている明神（みょうじん）系に分けることができます。

水之明神社には、二基の鳥居があり、二つとも明神系の鳥居です。石鳥居が明神鳥居、朱塗りの木製鳥居が両部鳥居です。両部鳥居は、広島県の厳島神社の海上にある大鳥居のように、柱の前後に副柱があります。

石鳥居の柱の裏側に、字中と昭和十一年（一九三六）八月吉日／郡中石喜刻とあります。石工の石喜刻は、旧郡中町の田中喜市（一）で、伊予市の伊予地区内で鳥居や手水鉢舎など、大正四年（一九一五）～昭和十五年（一九四〇）まで八点が確認されています。

石鳥居の上

水之明神社の石鳥居

木製鳥居社号額

木製鳥居